

佐賀県研究成果情報（作成 2025 年 2 月）

【情報名】高収量・高品質な促成栽培用のナス新品種「佐賀 N4 号」の育成

【要約】 ナス「佐賀 N4 号」は、とげなし性と単為結果性を有する促成栽培用の長ナス F₁ 品種である。「PC 筑陽」と比較して、草勢が強く、果実の首部径が太く、1 果重が重く、商品果収量が多い。

【キーワード】 ナス、単為結果性、とげなし性

【担当】 佐賀県農業試験研究センター・野菜・花き部・野菜研究担当（育種）

【連絡先】 0952-45-2143・nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

【分類】 普及

【部会名】 野菜

【専門】 育種

【背景・ねらい】

ナスの促成栽培では、単為結果性品種「PC 筑陽」の導入により、着果促進処理が不要となり、大幅な労力の軽減が可能となった。しかしながら、厳寒期の収量の減少や、細果や曲がり果などの果実品質の低下が問題となっている。そこで、「PC 筑陽」と同様にとげなし性と単為結果性を有し、高収量・高品質なナス新品種を育成する。

【成果の内容】

1. 「佐賀 N4 号」は、当センター育成のとげなし性かつ単為結果性固定系統「固 8」、「固 10」に愛知県育成の「とげなし輝楽」をそれぞれ交配した後代から選抜した「固 10×とげ輝-9」を種子親、「固 8×とげ輝-3」を花粉親とした F₁ 品種である（図 1）。
2. 草勢は「PC 筑陽」より強く、草姿はやや立性で、単為結果性を有しており、着果促進処理が不要である（表 1）。
3. 果実は「PC 筑陽」と同じ長形で、へたにとげが無く、果皮色は黒紫色で光沢がある（図 2）。首部径および尻部径は「PC 筑陽」より大きい（表 1）。果肉の肉質は「PC 筑陽」より緻密である（データ省略）。
4. 1 果重は「PC 筑陽」より重く（表 1）、商品果収量は「PC 筑陽」より多い（図 3）。細果や曲がり果が少なく、上物率が高い（表 1）。日焼け果やつやなし果の発生は少ない（データ省略）。

【成果の活用面・留意点】

1. 適用作型は促成作型である。
2. 高温期での定植は、単為結果性の発現が不安定となるので、2～3 番花まで着果促進処理を行い、確実に着果させるとともに草勢を落ち着かせる。なお、栽培マニュアルは準備中である。
3. 草勢が強く、過繁茂になりやすいため、適宜、摘葉や摘芯を行う。
4. 品種登録出願公表済みである（2024 年 5 月 23 日第 37285 号）。

【具体的なデータ】

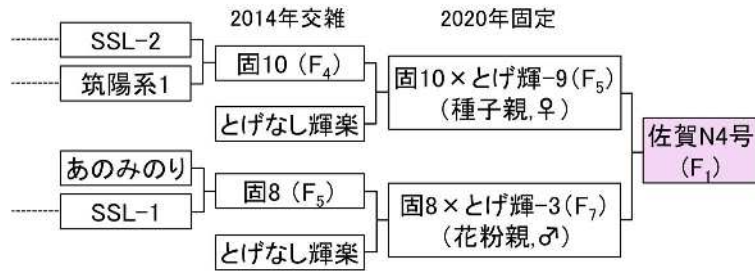


図1 「佐賀 N4 号」の系譜図

表1 「佐賀 N4 号」の諸特性

年次	品種名	草姿	単為結果性	果実長 (cm)	首部径 ^z (mm)	尻部径 ^z (mm)	1果重 ^z (g)	商品果率 (%)	上物率 (%)	細果率 (%)	曲がり果率 (%)
2022年	佐賀N4号	やや立性	有	19.4	41.9 **	50.0 n. s.	168.7 **	81.6	32.5	0.7	43.4
	PC筑陽	やや開帳	有	20.3	34.9	48.8	146.5	79.8	25.1	4.5	57.6
2023年	佐賀N4号	やや立性	有	20.2	42.5 **	50.9 *	175.0 **	77.8	33.9	0.8	45.7
	PC筑陽	やや開帳	有	20.7	35.8	48.2	147.0	74.0	25.4	5.9	59.9

^z統計解析は果実調査に対してのみ行い、**および*は t 検定により1%および5%水準で有意差あり、n. s. は有意差なし (n=3)



佐賀 N4 号 PC 筑陽

図2 「佐賀 N4 号」の果実外観

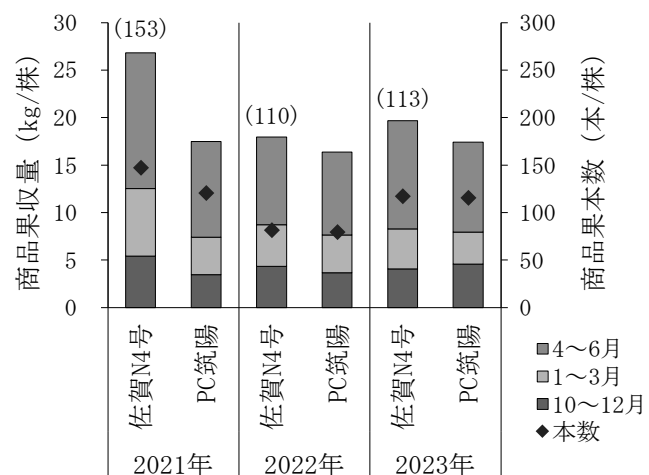


図3 「佐賀 N4 号」の商品果収量

^z 台木品種: 「トナシム」

^y 試験規模: 2021年; 5株反復なし、2022年・2023年; 5株3反復

^x 定植日: 2021年9月15日、2022年9月14日、2023年9月13日

^w 畝幅160cm、株間60cm、CO₂施用無し

^v () 内の値は各年度の「PC 筑陽」を100とした対比

【その他】

研究課題名:

県独自ブランド野菜新品種育成のための有用遺伝資源の収集・評価(2013~2016年度)

大幅な労力軽減が可能な種子繁殖型イチゴ・単為結果性ナス新品種の育成(2017~2023年度)

予算区分: 県単

研究期間: 2014~2023年度

研究担当者: 中山聖菜、伊東寛史、友貞俊成、木下剛仁、岡和彦

発表論文等: 園芸学会令和6年度秋季大会 ポスター発表